

# 小牧南遺跡 第2次 (No, 7)

[小牧南遺跡位置情報](#) (クリックすると地図を表示します)

## ○発掘調査が終了しました。

平成26年2月6日をもちまして、小牧南遺跡第2次調査は遺跡現場での作業を終了しました。今回はこれまで紹介しきれなかった遺構や遺物について紹介します。

## ○縄文時代の掘立柱建物



縄文時代の掘立柱建物

小牧南遺跡の縄文時代の遺構としては、すでに紹介した竪穴住居の他に、掘立柱建物5棟を確認しています。

柱穴跡から出土した土器の観察から、縄文時代中期後葉(4,500年前)のものと考えられます。

縄文時代の掘立柱建物が複数棟確認されたのは県内初めてのことで、縄文時代中期までさかのぼるといっても県内初めてです。

左の写真で人が立っている所が柱の跡ですが、大きさとしては幅3.5m、奥行き10.1mと長大なもので、No, 5で紹介した同時期の竪穴住居(3.2×3.4mの隅丸方形)と比較するとその大きさがイメージできるかと思います。

このような大きな建物をなにに  
使っていたのかが気になるところ  
じゃのう。



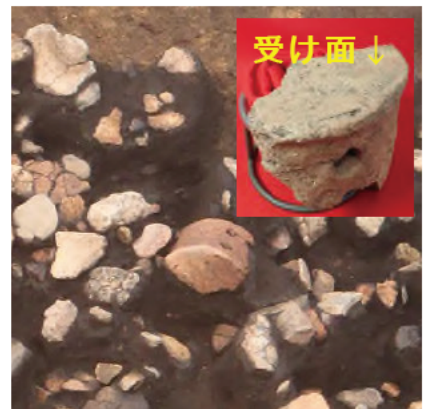
## ○縄文時代の「器台」

縄文時代の竪穴住居跡より「器台」が出土しました。これも縄文時代中期後葉(4,500年前)のものと考えられます。

注目すべきは上面(受け面)が平滑である点で、この受け面に他の土器を置いて使用した、あるいは粘土を置き、土器製作台として使用したのではないかという説があります。

さらにこの土器は関東を中心として東日本に限定的にみられ、今回の出土はこれまでで最も西方の出土例となります。

人々の移動に伴って運ばれてきたものなのか、遠く東の地方の土器を模倣して作られたものなのか、様々な可能性が考えられます。



器台出土時の様子

## ○古墳時代前期の遺構・遺物

これまで縄文時代の遺構、遺物を中心に紹介してきましたが、小牧南遺跡で最も多くみつまっている遺構・遺物は古墳時代前期のものです。

現在わかっているだけで竪穴住居47棟、掘立柱建物9棟が発見され、遺物も大変多く出土しました。

## ○古墳時代前期の遺構



重なって発見された遺構

47棟もの竪穴住居は単独でみつかったわけではなく、多くは写真のように狭い場所に重なった状態で見つかりました。

出土した遺物などから3世紀中頃から4世紀中頃までの約100年にわたりこの地に集落が営まれていたと推測できます。

またこれら竪穴住居には、炭化した木材が出土したことから何らかの理由で焼失したと考えられる住居や、土器を製作するためのものと思われる人頭大の粘土の塊が出土した住居もあります。

## ○古墳時代前期の遺物



古墳時代前期の遺物

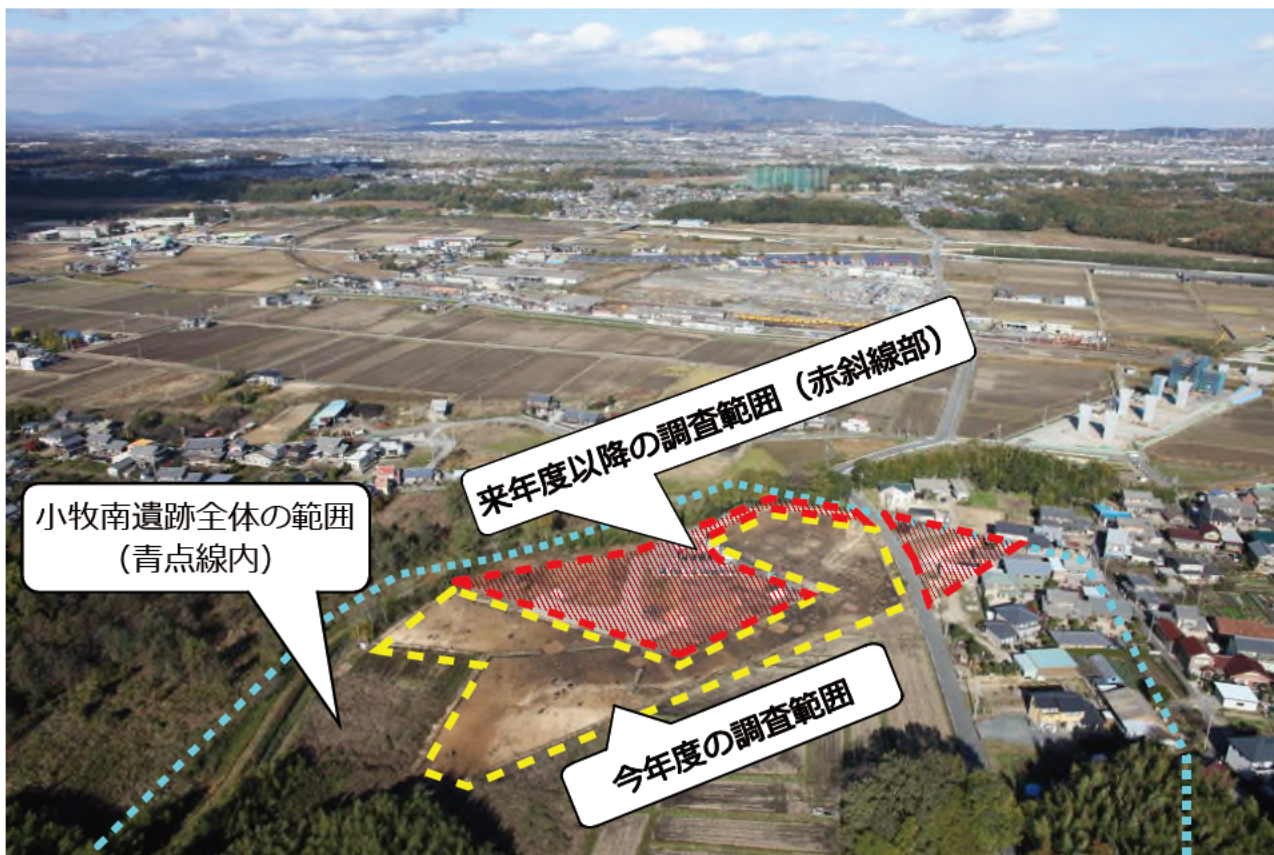
遺物も数多く出土しました。

土器については土師器の甕<sup>かめ</sup>、壺<sup>たかつき</sup>、高杯といった日常的によく使用される器種はもちろんのこと、土製の玉やミニチュア土器など非日常的な、用途のはっきりしないものも出土しております。

また、S字状口縁台付甕（S字甕）のような伊勢湾西岸地方によくみられる土器も出土しました。

鉄鏃<sup>てつそく</sup>や砥石といった、金属器やそれに関連する遺物も出土しています。

○現場での発掘調査を終えて。



上空からみた小牧南遺跡 (南西側から)

上の写真は調査の一環として小牧南遺跡南東側上空から撮影した全景写真です。  
来年度以降も調査する範囲は残っており、これまで同様多くの発見があるものと思います。

さて、今年度の現場での作業は終了しましたが、出土した遺物のさらなる分析など、  
小牧南遺跡の調査研究はまだ始まったばかりといえます。

今後の調査にぜひご期待ください。

発掘現場での作業だけではわからないことも多い。  
遺跡の全容、ひいてはこの地の歴史に迫るためにも、調査は続きますのじゃ。



【問い合わせ先】

三重県埋蔵文化財センター 調査研究3課 四日市整理所  
〒512-8064 三重県四日市市伊坂町126-1  
電話番号：059-363-3195/ファックス：059-363-3196  
E-mail：[maibun@pref.mie.jp](mailto:maibun@pref.mie.jp)